

●フレーム

フレームボディは、スリムな車体により、良好な足着き性を提供するモノバックボーン形式を採用。材質を韌性に富んだ高張力鋼として新設計しました。リアクッション上側ブラケットをフレームメインパイプの最適な位置に配置することでフレームボディに掛かる応力を分散させ、フレームの板厚低減を可能としました。同時に、出力とのバランスを図りながらピボットプレートの軽量化などによりフレーム重量を従来モデル^{※1}よりも約2,500g軽量化しました。

アルミダイキャスト製ピボットプレートは、それ自体の剛性によりピボットシャフトとの締結力を確保する従来モデル^{※1}の構造から、ピボットシャフト締結部を割締め式とすることで締結力を確保する構造に変更し、この軽量化を実現しました。

アルミダイキャスト製シートレールの新設計により、タンデムライディング時の荷重とライダーの居住性を犠牲にすることなく、従来モデル^{※1}に比べフロントアクスルからボディ後端までの距離を約60mm短縮^{※2}しました。また、各部肉厚を吟味すると同時に外観部品としての意匠を施すことでリアカウルを廃止。この構造により車体のマス集中化とともに、力強く凝縮感のある新世代CBとしてのシルエットに大きく寄与しています。

※1. 国内未発表、欧州向けモデル

※2. ボディ後端：従来欧州向けCB1000Rではリアカウル後端、新CB1000Rではシート後端

■フレーム、ピボット、シートレールイメージ図

